報道関係各位
プレスリリース

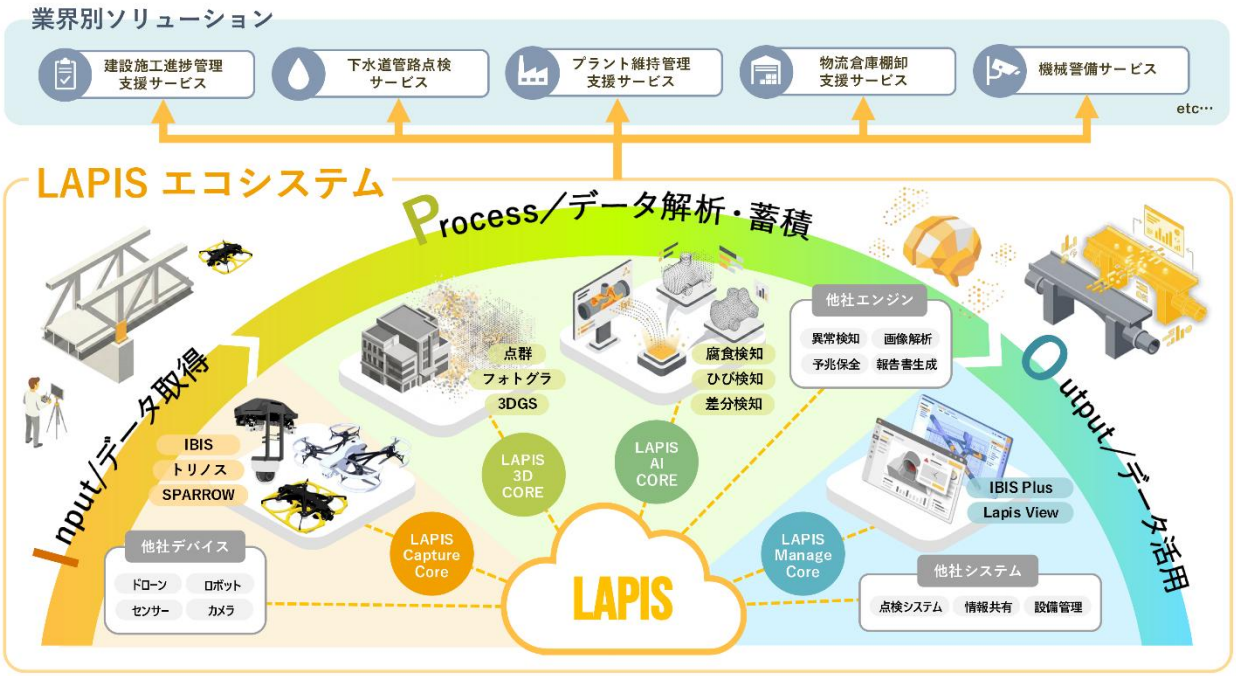
2026 年 6 月 10 日
株式会社 Liberaware

空間 iPaaS 基盤「LAPIS」を軸にソリューションビジネスを強化
「LAPIS」を起点としたエコシステムを構築し、業界別にメンテナンス・施工管理の最適化を実現

株式会社 Liberaware（本社：千葉県千葉市、代表取締役：関 弘圭、以下「当社」）は、自社ソフトウェアとして提供してきた画像解析ツール「LAPIS」を、現場 DX を支える空間 iPaaS（integration Platform as a Service）へと進化させ、様々なソリューションビジネスの創出・展開することをお知らせいたします。

当社独自のドローン・AI・画像解析技術に加え、広範なパートナー企業との LAPIS エコシステム※1 を構築することで、データの取得から活用までのプロセスをソリューションとして一気通貫で最適化し、インフラ・プラントメンテナンスのあり方を根本から変革します。

※1：空間 iPaaS 基盤「LAPIS」をベースに、パートナー企業のデバイス、AI、ソフトウェア、業務システム、現場知見を組み合わせ、業界別ソリューションを共創・展開していく価値創出の仕組み



■ 背景

従来の点検・調査業務は、人の経験や目視による評価が中心であるため、取得されたデータが業務ごとに分断されており、DX 推進の大きな障壁の一要因となっていました。 当社はこれまで、屋内用点検ドローン「IBIS」を通じて現場単位の効率化を実現してきましたが、その活用は特定のツール内に留まり、企業の基幹システムや他の業務アプリケーションと分断されるケースがあり、収集データの利活用に課題が発生するケースもありました。

このような課題を解消するために、LAPIS は単なる画像解析ソフトの枠を超え、あらゆる空間データと業務システムを繋ぐ「空間 iPaaS」へと進化します。現場のデータを更に価値ある情報へと昇華させ、効率的な設備管理と組織横断的な情報共有ができる環境を構築することで長期的な保全計画の精度向上を実現します。

■ 空間 iPaaS 基盤「LAPIS」 とは

LAPIS は、設備保全におけるデータの取得・可視化・解析・表示をシームレスに繋ぐ空間 iPaaS（Integration Platform as a Service）です。最大の特徴は、当社独自の技術基盤（LAPIS Core シリーズ）と、多様な他社製デバイス・ソフトウェアを繋ぎ合わせ、一つのエコシステム（LAPIS エコシステム）を構築できる点にあります。

■LAPIS Core シリーズとは

LAPIS Core シリーズは、データの「取得・可視化・解析・活用」における各フェーズに特化した当社の製品シリーズです。各製品は単体でも高い専門性を持ち、現場の特定の課題をピンポイントで解決します。これらの LAPIS Core シリーズを空間 iPaaS 基盤「LAPIS」上に統合することで、分断されていたプロセスが繋がり、データが循環する強力なエコシステムへと進化します。

① **LAPIS Caputure Core（取得）：あらゆる現場へ到達する多様なデバイス群**

自社プロダクトである「IBIS」「トリノス」など、データ取得に際し現場の状況や用途に応じて最適なデバイスを選択可能なデータ収集デバイス群です。

② **LAPIS 3D Core（可視化）：高度なデジタルツインデータを生成**

デジタルツイン構築の核となる、高精度な空間解析ソフトウェア群です。点群化、フォトグラメトリ、3DGS（3D Gaussian Splatting）などの最先端解析技術を活用し、物理空間を忠実にデジタル再現する高度な空間データを提供します。

③ **LAPIS AI Core（解析）：熟練者の知見をアルゴリズム化**

インフラ点検等に求められる自動診断に特化した、高度な解析アルゴリズム群です。ひび割れや腐食検知などを高精度に自動実行し、人の目による判断を強力にサポート。解析の「知能」を担う専門製品群です。

④ **LAPIS Manage Core（活用）：既存ワークフローとのシームレスな統合**

現場情報を価値ある知見として可視化する、統合管理製品群です。解析されたデータを誰にとっても分かりやすい形で共有・活用するための出口となります。

■ 空間 iPaaS 基盤「LAPIS」 の外部連携

LAPIS は自社製品の枠組みに閉じない「オープンエコシステム」を志向します。

- **Input**：他社製ドローン・ロボット等デバイスを問わずあらゆるデータの収集を可能にします。
- **Process**：他社エンジンを活用し高度な解析アルゴリズム、可視化手法、数値シミュレーション機能など LAPIS に接続します。
- **Output**：解析したデータや知見を、お客様が使い慣れた既存の管理システムやビューア、ERP（基幹業務システム）などで表示・運用することが可能です。

パートナー企業との共創により、建設、インフラ、プラント、在庫管理といった多岐にわたる現場の「最適解」を創出し続けます。

【連携企業／プロダクト（順不同）】
株式会社ソラコム／ソラカメ、株式会社アプトポッド／intdash、KDDI スマートドローン株式会社、ugo 株式会社、株式会社 DATAFLUCT、株式会社シムトップス／i-Reporter、サイボウズ株式会社／Kintone、
セーフィー株式会社、日鉄テックスエンジ株式会社／UNIVEAM4、MODE, Inc／BizStack、株式会社コルク／KOLC＋、Boston Dynamics 社製 SPOT 等

Spot®

■ **LAPIS を活用した業界別ソリューション提供について**
LAPIS は単なるデータ統合基盤に留まらず、業界特有の課題解決に直結する「業界別ソリューション」として順次展開してまいります。LAPIS エコシステムを活かし、インフラ・プラントといった各領域のパートナー

企業と連携しながら、建設施工進捗管理・下水道維持管理・プラント維持管理といった現場 DX の社会実装を加速させていきます。

■ 知財・特許について

本技術は当社のコア特許に基づくものであり、今後も関連領域における知財ポートフォリオの強化を進めてまいります。テック企業として、空間 ID 基盤や AI・ロボット統合制御などの重要領域において知財を確保し、強固な技術的優位性を維持してまいります。

■ 今後の展望

今後は、従来のプロダクト開発を更にスケールアップさせると共に、空間 iPaaS 基盤「LAPIS」を中心に、事業モデルをインフラ・プラントといった各領域に適した業界別ソリューション提供ビジネスへと進化させていきます。これにより当社は、プロダクト提供を中心としたドローンメーカーから「次世代の街づくりを支えるデータプラットフォーム企業」へと歩みを進め、多種多様なパートナー企業との広範なエコシステムを構築することで、インフラメンテナンスのあり方を根本から変革し、次世代の社会基盤を創出してまいります。

▼株式会社 Liberaware について

株式会社 Liberaware は、「誰もが安全な社会を作る」をミッションに掲げ、世界でも珍しい「狭くて、暗くて、危険な」かつ「屋内空間」の点検・計測に特化した世界最小級のドローン開発と、当該ドローンで収集した画像データを解析し顧客に提供するインフラ点検・維持管理ソリューションを行っております。弊社は、ビジョンでもある「見えないリスクを可視化する」ことに邁進し続け、人々に安全で平和な社会をお届けします。

会 社 名：株式会社 Liberaware（リベラウェア）
代 表 者：関弘圭（ミン・ホンキュ）
所 在 地：千葉県千葉市中央区中央 3-3-1
設　　立：2016 年 8 月 22 日
事業内容：
・ドローン事業：ドローン等を用いた調査・点検・測量サービス、自社開発のドローン等の販売・レンタルサービス
・デジタルツイン事業：ドローン等により取得したデータの画像処理、データ解析サービス、及び当社画像処理技術のライセンス提供
・ソリューション開発事業：ハードウェアからソフトウェアまで幅広いソリューションを提供する受託開発事業
U　R　L：https://liberaware.co.jp/
X アカウント：https://x.com/liberaware

〈本件に関するお問い合わせ先〉
株式会社 Liberaware　広報：前
TEL：090-9019-9057 / 043-497-5740 MAIL:pr@liberaware.com